

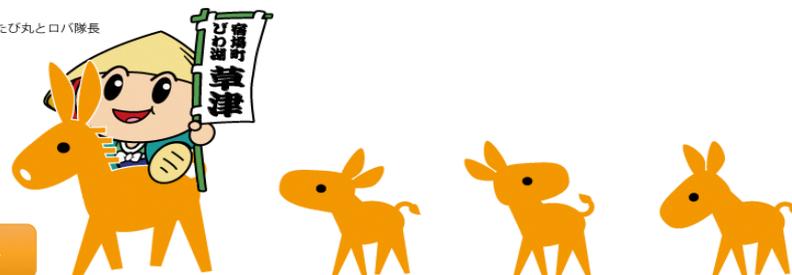
草津市認知症施策アクション・プラン（第2期計画）

～認知症があっても安心して生活できるまちづくり～

平成30年度第1回草津市認知症施策推進会議

平成30年10月2日（火）

たび丸とロバ隊長



たび丸とロバ隊長

●基本目標 1 ●

認知症への理解を深めるための普及・啓発

(1) 認知症サポーター養成講座の推進

目的

地域住民が、認知症サポーター養成講座を受講することによって認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者となり、できる範囲で活動できる。

内容

地域の活動団体への働きかけを通じて、子どもから働く世代、高齢者までのすべての市民を対象に、認知症サポーター養成講座を実施します。
また、認知症サポーター養成講座を受講した人が、認知症の人やその家族を地域全体で支える体制づくりを学ぶ場としてステップアップ講座を受講できる体制を整えます。

展望

●今年度実績

- ・全14回実施。1,195名受講。
- ・小学生向け講座2回（志津南小学校・矢倉小学校で実施）。
- ・ステップアップ講座2回。
- ・立命館大学での講座の開催。
- ・今年度予定：草津中学校1年生、のびっこ（笠縫）

●教育機関

- ・小学校での開催は学区の医療福祉を考える会議にて参加者から学校への働きかけにより開催につながった。
- ・小学生への講座を行うことで保護者世代への意識づけも行っていきたい。
- ・未開催小学校や中学校への働きかけもしていきたい。

●企業

- ・新規企業の申し込みはないが、企業への講座も行っている。今後県との連携がある意識が高い企業に訪問するなど働きかけていきたい。

子どもに認知症を知ってもらう

行政が依頼しても実現が難しかった小学校でのサポーター養成講座の開催・・・

しかし、地域とのつながりを通すとスムーズにサポーター養成講座が実現！！

- 志津南小学校では、1年生から福祉学習に取り組んでおり、その一環として6年生を対象に“認知症の方を理解する”目的でサポーター養成講座の依頼があり実施することができた。
- 矢倉小学校では、学区の医療福祉を考える会議のメンバーからの働きかけによりサポーター養成講座を開催することができた。
- 一回の開催で終わりではなく、どうしたら継続していけるか、また、他の小学校での開催につながるか検討が必要。

志津南6年生

認知症にかかった人にも寂しい気持ちや悲しい気持ち楽しい気持ちはあるし、自分が何かを忘れていってしまうことを不安に感じているので、認知症にかかっても安心して過ごせるようにまわりの方がフォローすることが大切だと思った。

アンケートの一部より

矢倉3年生

認知症というのは、脳の病気なんだなあと思いました。私のひいおばあちゃんは、認知症です。やさしくすると少しずつしか進まないと分かったのでこれからもやさしくしたいです。

養成講座受講後のサポーターの活躍支援

●ステップアップ講座について

・ 前回の認知症施策推進会議でも課題に挙がっていた認知症サポーター養成講座受講後の活動を支援する取組みとして、今年度からステップアップ講座を開催。

認知症をさらに詳しく、自分がサポーターとして**できそうなこと・やりたいこと**をグループワークにて考えていただく機会になる。

今後・・・

- 地域づくりを推進するための核となる「学区の医療福祉を考える会議」へ参画を期待。
- 地域において、認知症の人を見守り・声掛け等を実践していける人になることや、認知症の理解を地域で深める役割を期待。

(5) 地域見守り体制の検討

目的

地域における様々な関係者のネットワークを構築し、お互いに声かけや見守りを行うことで、認知症の人やその家族を含む高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる。

内容

認知症の有無に関わらず、高齢者が地域サロンや体操団体、認知症カフェ等の居場所に通うことでお互いの声掛けや見守りを進めます。高齢者に限らず地域の活動団体のPRや地域住民の交流推進、地域住民への啓発によって見守り体制の強化を図ります。
また、小学校区ごとに生活支援コーディネーターの配置と協議体を設置し、地域住民や関係機関とともに話し合いを通じて見守りなどの活動につながるよう、働きかけます。

展望

○本市では、地域づくりの推進に向け高齢者の暮らしの問題を「我が事」と捉えて話し合う（共感→共考→共働）場を増やしています。

- ・小学校区毎に「学区の医療福祉を考える会議」を開催。9月末現在、12小学校区で開催。

〔STEP 1 共感・共考〕認知症高齢者や要介護で支援が必要な高齢者にとって、声掛け・見守り・ちょっとした手伝い・居場所があれば地域で生活ができることを共有。

- ・見ず知らずの他人には、なかなか声がかけれられない。まずはお互いを知るために、サロン等の活動通じて、つながりをつくり・広げる。
- ・いざという時に“助けて”と言える関係づくり、抱え込まない関係づくり。
- ・町内会単位の活動を広げ、地域なりの見守り活動を深めよう。

〔STEP 2 共働〕今後、居場所をはじめ、声掛け・見守り等の様々な活動“あったらいいな”を形にし、高齢者にやさしい地域づくりを推進する。

地域づくりの推進 ～学区の医療福祉を考える会議より～

生活支援コーディネーターニュース

2018年夏号

発行 社会福祉法人草津市社会福祉協議会

草津市では、現在11学区で高齢者の暮らしの問題を、みんなで共感する場である、医療福祉を考える会議が立ち上がっています。

生活支援コーディネーターニュースでは、各学区の取り組み状況を紹介します。



市社協キャラクター
みくぢゅん

志津* 思いが湧き出る場 H27~

地域の社会資源を知ってもらうため、昨年度「志津のあんしんつながりノート」を作成しました。みんなで高齢者の顔を思い浮かべて話し合いをするなかで、「何かをしたい」という思いが湧き出し、今後は見守りの



ネットワーク
づくりに取り
組んでいきます。

志津南* もっと良くしよう、地域

会議の開催に向けて、事前研修会や先進地への視察を実施しています。例えば、今展開している高齢者を支える活動が、10年後も続いていくようにするには？もっと志津南をよくしていくための語り合う場が、間もなく始まります。



↑ふれあいのウス絆
敬高喫茶

草津* 新しいつながりの輪

地域から愛されている“ゆかい家”を拠点に、今年度立ち上がろうとしている、その名も「草津学区の健幸を語り合うプロジェクト」。考え込まないで、まずはみんな、ここで語り



↑ゆかい家にて
子育てサロン

ましょう。そんな思いを含めたプロジェクト、始動です。

矢倉* 矢倉なりの見守りをしようH27~

これまで、認知症の方が安心して暮らせる地域について考えてきました。地域みんなで見守る地域づくりのひとつとして、町内会単位で実施されているさまざまな活動を広げることで、矢倉なりの見守り活動を深められるような語り合いを進めていきます。



↑喫茶“穂”

大路* 高く飛ぶための準備

米原市大野木長寿村まちづくり会への視察研修を実施し、高齢化が進む中で今何ができるかを考え、自分たちで活動を開始しているようすを聞き、大路区においても、高齢者の暮らしの問題について考え



支えていくための事前準備を行っています。

渋川* 語ることでつながる H27~

昨年度に実施した「渋川学区の夢を語るワークショップ」で出てきた夢のうち、「人と人のつながりが必要」ということにスポットをあて、つながりが広がっていくために、ひとりひとりや団体でできることを、さらにみんなで考えていきます。



志津学区では、10月に認知症サポーター養成講座、11月に地域安心声かけ訓練等を実施することになりました。

学区の医療福祉を考える会議

老上*「人」と「想い」を育てる H24~

会議の語り合いをきっかけに、「老上送迎サポート（地域支え合い運送支援）」や、「カフェほっこり」が立ち上がりました。これらの活動が続いていくよう、新しいマンション群に住む人たち

ともつながりづくりをしていくため、フォーラムを開催しました。



↑カフェほっこり

老上西* 身近な単位で支え合う H24~

これまでの会議を拡大し、フォーラムを開催しました。ワークショップでは町内会ごとに分かれて、「こんなまちになったらいいな」「ここがこのまちの強みだ」という思いを語り合いました。共感した夢を叶えるために



必要なことを、今後さらに語り合います。

山田* 振り返る大切さ H25~

これまでの会議を振り返り、会議で実感できたこと・持ち越している課題を整理しました。より多くの住民へ高齢者の暮らしの問題や地域の多様な活動、社会資源を周知するため、開始から15回目を契機にフォーラムを開催する予定です。



↑地域支え合い運送支援

笠縫*「知る」という見守り H26~

多くの学区住民に認知症を知ってもらうため、定期的に講演会を実施しています。たくさんの方が、学習を通して地域の困りごとを知ること、今までよりもさらに地域に関心を持ち、み



んなで支える地域づくりが進むことが目標です。

玉川* 目的をもって一歩ずつ H29~

高齢者の暮らしの問題を語り合い、出てきた「人間関係が希薄」「必要な情報が届かない」「担い手がいない」「認知症」のそれぞれのキーワードをさらに深掘りする会議をしています。寸剣を



交え、意見が出やすいよう工夫しています。

南笠東* 私たちのマップはNo.1 H28~

昨年度に作成した「ときめきのまち南笠東お助けマップ」は、表紙から中身までこだわりぬき、会議メンバーも、手元に届いた住民にとっても魅力的なものになりました。

今後ますます魅力的な地域にしていくため、みんなで語り合います。



笠縫東* 歴史→絆→未来 H24~

市内で1番早くから会議を実施してきた学区だからこそ、認知症や老老介護、高齢者が出かけられる場所など、たくさん語り合ってきました。ここで、これまでの内容を振り返ることで、新



しい気づきという光で、さらに未来を照らしていきます。

常盤* 会議があつてよかった H27~

在宅介護について話し合いを進めていくなかで、「この会議は、もっと多くの住民に伝えていくべき。とても良い内容だ」という声があがりました。この会議が、常盤にとっての財産になるよう

に、たくさんの人たちに向けて啓発していきます。



● 基本目標 3 ●

認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供

(5) 認知症初期集中支援チームの効果的な運用

目的

認知症の人やその家族が早期に適切な治療や相談支援につながり、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けることができる。

内容

認知症の人やその家族が早期に必要な医療や支援および介護を受けられるように、関係機関と連携を図りながら認知症初期集中支援チームの活用を進め、早期診断・早期対応の体制を構築するとともに、認知症の人に関わる支援者の対応力の向上を図ります。

展望

● 認知症初期集中支援チーム

- ・ H29年度からの継続支援ケース4件、新規検討9件。（14名の対象者に訪問支援30回、チーム員会議5回実施）
- ・ 地域包括をはじめとした関係機関と役割分担・連携を図りながら、早期に必要な医療や、介護サービス、ケアにつながるよう支援しているところである。
- ・ 個別の支援を通じて、早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築する上での地域課題を抽出し、検討会を通じて関係機関へ発信している。

※事業評価としての検討委員会を認知症施策推進会議に位置付けており、第2回で活動報告を行います。

●基本目標 5

認知症の人の介護者への支援

拡充
事業

(5) 本人・介護者が集える居場所の支援

目的

体操団体や認知症カフェ、地域サロン等の地域の様々な活動グループの人が、認知症を正しく理解し、認知症の人とともに活動することで、認知症の人やその家族が、地域の居場所に気軽に安心して通い続けることができる。

内容

体操団体や地域サロン等の地域の高齢者の通いの場向けに認知症サポーター養成講座を行うことで、認知症の正しい理解の普及と適切な対応の推進を図り、認知症があっても継続して通うことができる居場所となるよう働きかけます。また、このような地域の居場所や活動について、PRを行います。

展望

- 活動団体向けの認知症サポーター養成講座の実施
- 活動団体のPRの実施

いきいき百歳体操の団体や、地域サロン等の地域の通いの場に対して、認知症サポーターステップアップ講座や脳活リーダー養成講座の案内を行い、身近な活動グループに認知症があっても継続して通うことができるよう働きを行っている。また、活動紙などを通してPRしている。

集える居場所で、まずは“顔なじみ”の関係づくり

●地域あんしん声かけ訓練（徘徊模擬訓練）を実施するけれども・・・

まったく見ず知らずの他人に対し、突然、「あなたを支援します。」というのは、言う方も言われる方も抵抗があります。

だから、やっぱりその前に知り合っておくこと、「顔なじみの関係”になっていなければならぬ。

元気な内から、地域サロン等へ参加し、そして認知症になったら公言できるような関係づくりをしていこう。

事例（地域から）

日頃、地域の常設サロンを利用するAさんは、軽度の認知症であることを周囲の方が認識されている。

ある猛暑日、同じサロンを利用するBさんが自動車を運転中、地域から随分離れた国道を歩行するAさんを見かける。

（これは、おかしい！！と思ったBさん、でも家族の連絡先は知らない・・・。）

Bさんは、他のサロン利用者Cさんに連絡、このCさんから民生委員さんへ連絡、民生委員さんから家族へ連絡が入り、Aさんはこと無きを得た。

あまり親しくなくても、本人や家族（顔なじみ）を知っていれば、何とかしようと思うもの！！知っているから行動できる！！

●基本目標 5 認知症の人の介護者への支援

新規
事業

(6) 地域に根差した介護者への支援の検討

目的

認知症の人とその家族への支援を地域とのつながりの視点で検討することで、地域で孤立することなく過ごすことができる。

内容

地域ケア会議等を開催し、認知症の人やその家族の孤立化を防ぐ地域での支援について、認知症の人やその家族の声を反映しながら検討します。

展望

●地域ケア個別会議（B）

専門職のアドバイザーの皆さんからの助言をいただき、認知症の人や家族の思いに寄り添うケアについて検討している。介護負担を軽減するサービスの導入だけではなく、どんな介護や生活がしたいかに着目して、地域とのつながりの中で家族への支援をどう展開すればよいか考えている。

●地域ケア推進会議（学区の医療福祉を考える会議）

認知症をテーマにグループワークを行ったところ、「家族もストレスを抱え込んでつかれている」現状が共有でき、「認知症高齢者を鍵で閉じ込める地域にはなりたくない」という言葉が生まれてきた。「家族が認知症なんや」と言えるような、日ごろから「気持ちも体もオープンな関係性」を作っていくためにはどうしたらよいか、会議を通じて地域の皆さんと考えている。

●認知症施策推進会議

介護経験をお持ちの方や認知症の人と家族の会の代表の方に委員として参画していただき、実体験に基づいた介護者の思いや必要な方策について意見を述べていただいている。

介護者への支援とは・・・



●「**認知症であることを周囲の人に伝えて、気持ちが楽になった**」という声もあり、そんな関係づくりも大切。

●地域の活動に誘い出してもらう「**なじみの関係**」があると良い。**元気な時からお互いを気にかける関係、つながりづくり**大切。

●認知症高齢者 本人にも何かしらの役割があるといい。

“認知症であることをオープンにできる関係づくり”が大切！

➔ 認知症であることを隠さず、恥じず、見守り、支える地域
+ いざというときの介護職等専門職のバックアップ

●基本目標 6 権利擁護の推進

新規
拡充

(3) 高齢者虐待防止体制の構築 (7) 高齢者虐待防止の普及・啓発

目的

- 高齢者虐待の防止、早期発見、再発防止を図り、高齢者や養護者を見守り、支援する。
 - 市民の高齢者虐待防止に対する知識と意識を高めることで、虐待予防や早期発見、再発防止につなげる。
- 認知症の人の権利擁護について、支援者の認識を高めることで、権利侵害の予防や早期に適切な対応につなげる。

内容

- ・関係機関、関係団体及び高齢者の福祉に関する従事者等が高齢者虐待についての現状や考え方を共有し、高齢者虐待防止の支援や体制づくりを連携、協力して推進します。
 - ・高齢者虐待の防止と早期発見の重要性や相談窓口について、広報紙やラジオ番組およびリーフレット等による啓発をします。あわせて、講演会等の開催について検討します。
- また、ケアマネジャーや圏域地域包括支援センター職員を対象に、虐待防止についての研修会を開催し対応力の向上を図ります。

展望

- 高齢者虐待対応マニュアル、事例集の活用方法を検討**
国の高齢者虐待対応マニュアルが平成30年3月に改訂されたことを受け、市のマニュアルも現在改定をしているところ。事例集を関係機関に配布し、効果的な対応方法に活かしてもらえるよう活用を予定している。
- 高齢者虐待防止の体制づくりを検討、推進する**
- 支援者向けの虐待予防研修会の開催**
介護者の負担や孤立を背景とした高齢者虐待は誰にでも起こりうる身近なものとして、起こってからの対応ではなく起こらないように防ぐための支援は、どのようにすればよいか、まずは介護支援専門員等の支援者の認識を高めるため虐待防止研修を実施している。

高齢者虐待対応マニュアルについて

●目的●

「高齢者虐待防止法」・・・高齢者虐待の公的責任が明確化

高齢者を虐待という権利侵害から守り、尊厳を保ち、安定した生活が送れるように、**早期発見・早期対応だけでなく、養護者支援**など、高齢者虐待防止の取り組みをより適切に行うために作成。

●養護者支援●

養護者による高齢者虐待においては、「どこの家でも起こり得ること」、また「家庭という密室の状態の中で起こる」ため、「周りからはわかりにくく、家族の中の問題」と見過ごしてしまうことも多い。認知症の進行や要介護度が高くなっていく状況の中で介護負担の増加も見られる。家族全体の状況からその家庭が抱えている問題を理解し、高齢者・養護者・家族に対する支援を行うことが重要である。

●迅速かつ組織的に対応●

通報や届出があった場合には迅速に対応している。また、担当者一人の判断で対応することを避け、組織的な対応を行い、事実確認、高齢者の生活の安定に向けた支援に至る各段階において、複数の関係者が連携を取りながらチームとして対応している。

●発生予防への取り組み●

○ケアマネジャーや介護保険サービス事業所などの支援者だけでなく、近隣住民も含めて、高齢者虐待に対する認識を深められるような啓発をすすめる。

○虐待事例の多くは認知症を有しており、家庭での認知症ケアに関わる対応困難や介護負担が虐待の発生要因となることから、認知症に関する正しい知識についての啓発をすすめる。

まとめ～第2期計画期間中に注視するポイント～

- 様々な地域活動等と連動した普及・啓発
- 認知症を「人ごと」ではなく「我が事」として
まずは共感・共考して、共働する地域づくり
- “顔なじみの関係”であれば行動(声かけ)できる
- 認知症をオープンにできる関係づくり
- 高齢者の権利を守る予防的な取組み